

## Q&amp;A

鉄欠乏性貧血に対してカプセル内視鏡検査を  
施行した症例

解答：

1. 原発性早期小腸癌 (UICC 第7版 pT1a pN0 M0 pStage I, 大腸癌取扱い規約 第7版 pM N0 M0 pStage 0)
2. 小腸部分切除術, 領域リンパ節郭清

解説：

内視鏡所見, 造影検査所見より深達度 SM の小腸癌と診断した。リンパ節転移, 遠隔転移は認められず, 腹腔鏡下小腸部分切除術, 領域リンパ節郭清が施行された。腫瘍は Treitz 靱帯より 20cm 肛門側に認められ, 全周性の乳頭状隆起型を呈していた (Figure 4)。病理診断では高分化から中分化型管状腺癌の所見で, 腫瘍は粘膜層に留まっており, 深達度 M の診断となった (Figure 5)。術後 2 年が経過するが, 無再発生存中である。

原発性小腸癌は小腸腫瘍の 9.7% と報告されている<sup>1)</sup>。好発部位は, 空腸では Treitz 靱帯より 60cm 以内, 回腸では Bauhin 弁より 40cm 以内での報告が多い<sup>2)</sup>。深達度が浅い病変の場合, 自覚症状はほとんどなく, 発見契機は貧血や消化管出血に対する精査目的の内視鏡検査や, 腸重積であることが多い<sup>3)</sup>。治療の基本は外科的完全切除である。治癒切除例の 5 年生存率は 81% であるのに対し, 非治癒切除例では 42%, 非手術例では 39% と報告されており<sup>4)</sup>、早期での発見が重要である。発見時には進行している場合が多く, 予後不良といわれてきたが, 早期で発見されたものではリンパ

節転移例は少なく<sup>3)</sup>、今後はカプセル内視鏡や小腸鏡の普及により改善されていく可能性がある。まれな疾患ではあるが, 貧血に対し消化管検査を施行する際には念頭におく必要がある。

参考文献：

- 1) Mitsui K, Tanaka S, Yamamoto H, et al: Role of double-balloon endoscopy in the diagnosis of small-bowel tumors: the first Japanese multicenter study. *Gastrointest Endosc* 70; 498-504: 2009
- 2) 八尾恒良, 八尾建史, 真武弘明, 他: 小腸腫瘍最近 5 年間 (1995~1999) の本邦報告例の集計. *胃と腸* 36; 871-881: 2001
- 3) 新井賢一郎, 船橋公彦, 小池淳一, 他: 早期診断と治療において腹腔鏡補助下手術が有用であった原発性早期小腸癌の 1 例と本邦報告 41 例の文献的考察. *臨牀と研究* 88; 624-629: 2011
- 4) North JH, Pack MS: Malignant tumors of the small intestine: a review of 144 cases. *Am Surg* 66; 46-51: 2000

本論文内容に関連する著者の利益相反  
：なし

出題：大森 沙織 (北海道大学大学院  
消化器内科学)  
清水 勇一 ( )



Figure 4. 切除標本.

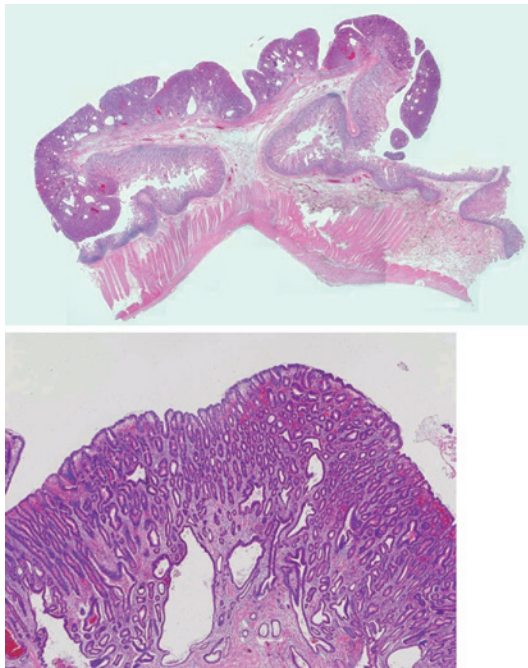


Figure 5. 病理組織学的所見.